

03 つどう

市内各所にある子育て支援室は、今日も小さい子どもを連れてママ、パパでにぎわう。子育て支援室「フラワー」と小絹児童館を訪ね、保育士、児童館の館長それぞれに話を伺った。



利用者も巻き込んで
楽しい支援室に

支援室を担当する保育士の寺田さんに話を聞くことができ、「以前フラワーでお昼寝アートを開催したんです。たまたま利用者さんの中にプロカメラマンの方と、おむつアートをやっている方がいたのがきっかけですね。知り合いのママに声をかけて、5人くらい集まって。みんな準備をして、お昼寝アート当日は100人以上の方が集まってくれました。協力してくれたママたちは今でも仲が良く、支援室に遊びに来てくれます。1回で終わりにしないで、また次も、利用者さんを巻き込んだ企画を考えて、楽しい支援室にしていきたいですね」

話すだけ、共感するだけで
気持ちが楽に

フラワーのある谷和原第2保育所の青木所長は子育て支援室についてこう話す。「もっと話したい、というお母さんがフラワーを利用してくれますね。保育所の先生たちも、利用者とのマンツーマンの関わりを大切にしているから。子育てってすごく大変なことの連続なんですよね。思うようにいかないのは分かっているけれど、そのときは

夢中で気がつかない。だけど、話すだけで、共感してもらえただけで、気持ちが楽になるっていう方がいっぱいいると思うので。いつ来ても、いつ帰ってもいい、実家に来るような気持ちで来てくれたら」



子育て支援室「フラワー」の保育士の皆さん

VOICE ~声~



かわばた さち
川畑 沙知さん
はる
波琉くん (3歳)

2歳になるまでは、みらい平コミセンの子育て支援室を利用していました。リズムあそびなどのイベントがある時に参加したり。見てくれる人がいるので助かります。お気に入りはいくらもやま。外のベンチなど食事ができる場所があったので、午前中に支援室で遊んで、お昼を食べて、車で寝かせて帰る、というのがお決まりのコースでした。今回、久しぶりに支援室に来てみたら、子どももすごくうれしそうにしていました。

VOICE ~声~



みやざわひろあき
小絹児童館・館長 宮澤宏樹さん
中学校の教師から、より主体的に働ける場所を求め、NPO 法人 ワーカーズコープへ。これまで学童保育や学習支援などに携わり、この4月から小絹児童館の館長として勤務している。

一緒に遊んで、
よりよい環境づくりを

児童館(子育て支援室)をより良くするアイデアは利用者の皆さんからも出してもらっています。先日、ハイハイをしているお子さんのお母さんの「ハイ

ハイで競争がしたい」のひと言から、「よいいどん」っていうイベントをやりました。部門を「ハイハイ」「よちよち」「かけっこ」に分けて、遊戯室の中で、みんなでよいいどんって。「ハイハイ」が一番盛り上がりましたね。反対方向にいつちゃったりして(笑)。この日はたくさんの方に参加していただいて、皆さんすごく喜んでくれました。子どもの成長ってあつという間じゃないですか。だからその時期にしか味わえないことをしたいですね。

今、お母さんたちも子育てに悩んでいる方が多いので、そういう悩みを解消する手助けをしたいと思っています。イベントにたくさんのお母さんが来てくれて、お母さん同士で「大変よね」って話をするだけでも、状況は変わるかなって思うんです。親同士のつなげ役っていうのも、児童館で担っていかけて思っています。

★各子育て支援室のイベントは、毎月の広報つくばみらいに掲載しています(今月は28・29ページに掲載)。